

◆理事会(五十音順)

磯村 尚徳
大浦 紀彦
オスタン・ガエル(理事長)
ダヴィッド・バトリック
寺島 左和子
原田 昌子
森川 すいめい
山田 信幸
與座 聡

外交評論家
形成外科医
PMC株式会社代表取締役
麻酔科医
形成外科医
看護師
精神科医
形成外科医
形成外科医

◆事務局(五十音順)

安達 洋子
阿部 さやか
石井 夕美
石川 尚
伊藤 馨恵
具 貴香
熊澤 幸子
畔柳 奈緒
高木 加代子
武石 晶子
玉手 幸一
松井 智美
メシニャック・マジヨリ
渡辺 もえ

ファンドレイザー(ドナーリレーション)
ファンドレイジングマネージャー
総務・経理マネージャー
広報マネージャー/証言活動担当
マーケティングアシスタント
プロジェクトオフィサー
医療支援プロジェクト担当
事務局長
プロジェクトオフィサー
ハウジングファースト東京プロジェクト担当
シニアプロジェクトオフィサー
ファンドレイザー(個人支援者担当)
事務局長アシスタント/プロジェクトアシスタント
プロジェクトアシスタント

◆パートナー(五十音順・敬称略)

寄付・助成金等
(株)アクアリンク/アサヒブリック(株)
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド/いちよし証券(株)
(株)エイベックスインターナショナル/エーツーケア(株)/エドワーズライフサイエンス(株)
(株)グリーンティングライフ/(一財)ザ・ブラフ・クリニック/(特活)ジャパン・プラットフォーム
住信SBIネット銀行(株)/日本労働組合総連合会/(株)バリュース・BNPパリバ証券(株)
ファイザー(株)/(株)フェリシモ/ヤフー(株)/楽天銀行(株)/リンベル(株)

※紙面の都合上、金額・継続期間等の基準による按割とさせていただきます。
2017年度にご寄付いただきましたすべての法人・企業の皆さまに対し、改めてお礼申し上げます。

物品サービス

エクスコムグローバル(株)/(株)農心ジャパン/(株)Picnic/ブジョー・シトロエン・ジャパン(株)

イベント協力

ヴァローナ ジャパン(株)/LMVHモエ ヘネシー・ルイ ヴィトン・ジャパン(株)/(株)グローバル
チャンネル(株)/ハイアットホテルアンドリゾーツ/バカラ パシフィック(株)/ハリウッド化粧品
パリス空港公園/バロン・フィリップ・ド・ロスシルド・オリエント代表事務所
フランス観光開発機構/フランス料理文化センター/ボアレ ジャパン(株)
モーブッサンジャパン(株)/ロンシャン・ジャパン(株)

プロボノ

デロイトトーマツ コンサルティング(株)/ホワイト&ケース法律事務所

世界の医療団 (認定NPO法人)

特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン

Médecins du Monde Japon

〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10 麻布善波ビル2F

Azabu-Zenba Bldg. 2F, 2-6-10 Higashi-Azabu, Minato-ku, Tokyo

106-0044, Japan

Tel: +81-(0)3-3585-6436 Fax: +81-(0)3-3560-8073

E-mail: info@mdm.or.jp

www.mdm.or.jp



世界の医療団

2018年3月発行

2017年度 活動報告書



©Kazuo Koishi



©Kristof Vadino



©Jelle Boone



©Olivier Papegnies



©Kristof Vadino

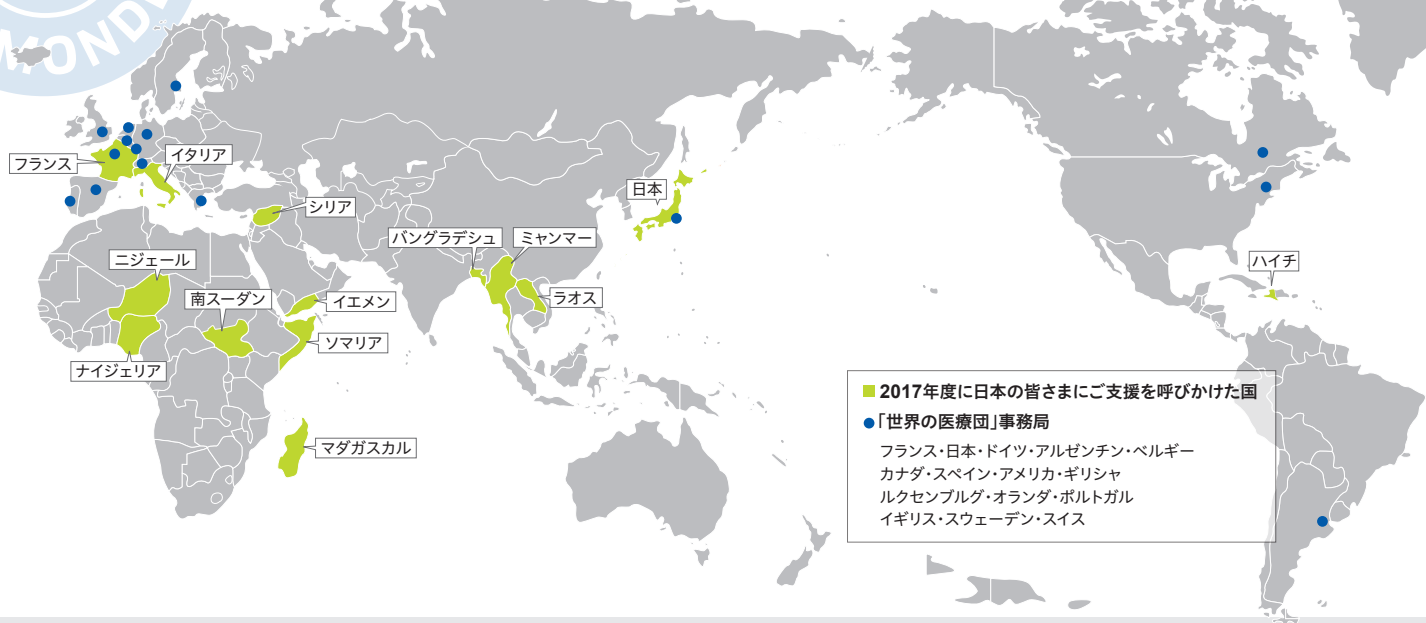


©Kazuo Koishi

「誰もが治療を受けられる未来を。」

“POUR UN MONDE OÙ CHACUN PEUT ÊTRE SOIGNÉ.”

世界の医療団の使命は「治療」と「証言」です。



支援者の皆さまへ

2017年8月以降、ミャンマーのラカイン州から、迫害や暴力を受けてロヒンギャの人々が難民となり、隣国バングラデシュに逃れています。この事態への対応として、世界の医療団は日本事務局として初めての海外緊急医療支援を実施しています。ロヒンギャの人々が滞る難民キャンプは広範囲に渡り、医療を必要としながらも受けることができない人々への支援が必要な状況が続いています。また、2017年1月からは、ラオス・フアバン県において「ラオス小児医療強化プロジェクト」が3か年計画で始まりました。本プロジェクトは、2012年から3年半に渡り、同ラオス・チャンパサック県で実施していたプロジェクトで培った経験と成果を活かして行っています。

国内のプロジェクトでは、開始から5年が経過した福島そうそうプロジェクト、川内村こころのケアプロジェクトにおいて、これまで積み重ねてきた私たちの活動から見えてきた課題と、今後の復興に向けた提言を冊子としてまとめ、発表しました。

これらの活動は、ご支援者の皆さま、お一人おひとりのあたたかいご寄付に支えられて実現することができました。2017年に頂戴しましたすべてのご支援に対し、ここに改めて心より御礼を申し上げます。2018年もひとりでも多くの人へ医療を届けるため、邁進してまいります。今後とも、私たちの活動へ変わらぬご理解とご支援を賜れますようお願い申し上げます。

世界の医療団 日本
理事長 ガエル・オスタン

◆ 2017年医療ボランティア海外派遣実績

海外支援活動には、医師8名（阿久津麗華、岡田朋子、古賀康史、寺島左和子、森岡大地、山田信幸、山田美紀、與座聡）、看護師5名（石原恵、原田昌子、木田晶子、高桑郁子、辻之内幸恵）が参加しました。

【医療ボランティアの声】 看護師 辻之内幸恵

スマイル作戦は、開発途上国で手術に必要な人々に傷や疾患の修復を行うことにより身体機能を回復、改善し、地域や学校などに笑顔で戻るための医療支援です。私は看護師として世界の医療団のこの活動に参加しています。

手術は、口唇・口蓋裂を主として、熱傷後の瘢痕拘縮や植皮・奇形など大人から子どもまで一人ひとりの笑顔を取り戻すべく、現地スタッフの協力のもと、彼らの技術指導も含め行っています。

幸せとは何なのでしょう。人それぞれでひとつの答えはないけれど、人の笑顔を見ることが少なからず幸せな気持ちになれるのではないのでしょうか。言葉は通じなくとも笑顔は世界共通の表現方法であることを活動を通して実感しています。開発途上国ではこの分野での医療の進みが遅く、また、命の危険がないからと、手術をすれば治る疾患であるにもかかわらず、それが叶わず何年も苦しみや不自由を感じていたかもしれません。しかし、それらを吹き飛ばすような笑顔を見ることが何回手術後に見せてくれます。

医療支援で重要なことは継続です。身体的な問題にせよ、精神的な問題にせよ一度で完治、回復することはありません。皆さまのご支援のおかげで、国内のみならず世界の笑顔を取り戻していることに心から感謝いたします。



辻之内幸恵(写真右)

アフリカ・中東地域

緊急支援

〈ナイジェリア〉

人間開発指数

(188か国中) 152位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 108.8人

平均寿命 53.1歳

医師、看護師、助産師の数

(国民1万人あたり) 18.3人

〈ソマリア〉

人間開発指数

(188か国中) — 位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 136.8人

平均寿命 55.7歳

医師、看護師、助産師の数

(国民1万人あたり) 1.1人

〈南スーダン〉

人間開発指数

(188か国中) 181位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 92.6人

平均寿命 56.1歳

医師、看護師、助産師の数

(国民1万人あたり) — 人

〈イエメン〉

人間開発指数

(188か国中) 168位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 41.9人

平均寿命 64.1歳

医師、看護師、助産師の数

(国民1万人あたり) 10.7人

アフリカ大陸のナイジェリア、南スーダン、ソマリア、そして、中東のイエメンは、紛争と大規模な干ばつにより、非常に深刻な食糧危機に直面しています。「4か国で少なくとも2,000万人以上が影響を受けているという規模の大きさ、さらに、人道的介入も難しく、まさに緊急事態です」世界の医療団フランスの理事長フランソワーズ・シヴィニヨンは述べます。また、ソマリアとイエメンでは、紛争による混乱が不衛生な環境を作り出し、清潔な水を手に入れることもできないため、コレラの感染も拡大しています。

◆ナイジェリア

ボルノ州マイドウグリ4か所の難民キャンプで、特に妊産婦と栄養不良の子どもに配慮したプライマリーヘルスケアの体制強化と、2か所のヘルスセンターのサポートをしました。

◆ソマリア

北部の町ボソソで、24時間無料で誰もが利用できるケアセンターを4か所運営し、これまでにおよそ5万人の診療をしました。

◆南スーダン

国土の8割が紛争の影響下にあり、医療サービスはまったく機能していません。2017年6月、世界の医療団は、支援開始に向けてアセスメントを実施しました。

◆イエメン

首都サヌアのヘルスセンター15か所で経口補水療法を、2か所で下痢の治療を行いました。



©Mdm Belgique



©Jelle Boone

ロヒンギャ難民

緊急支援

ロヒンギャはバングラデシュ国境近くのミャンマー・ラカイン州に居住する少数民族です。1982年、ミャンマー政府により国籍を剥奪され、無国籍状態となりました。度重なる差別と迫害を受け、20万人以上(UNOCHA発表)の人々がバングラデシュに逃れ、難民として粗末なキャンプで暮らしてきました。そのような中、2017年8月25日、それまでにない大規模な衝突が発生、その日以降、65万人以上(IOM発表、2017年12月現在)がバングラデシュに押し寄せています。世界の医療団は、バングラデシュの医療NGOであるパートナー団体GKとともに、2017年9月から活動を開始、12月からは日本からも常駐の医療者とコーディネーターを現地へ派遣しました。難民キャンプでクリニックを運営するとともに、自力ではクリニックに来ることができない人々をアウトリーチにより、医療につなげる活動を行っています。



©Lea Gibert

〈ミャンマー〉

人間開発指数

(188か国中) 145位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 50人

平均寿命 66.1歳

医師、看護師、助産師の数

(国民1万人あたり) 15人

シリア

緊急支援

一般市民を巻き込んだ非人道的な殺戮行為が日常的に起きています。戦禍を逃れるために故郷を捨て、難民となった人々がいる一方、砲弾が飛び交うシリアから逃れる術を持たず、極限の状況下で暮らしている人々がいます。また、医療施設が攻撃の対象にされるという事態も発生しています。国内の約半数の医療施設は紛争の被害を受けて機能しておらず、かろうじて稼働している施設も医療スタッフ、設備、医薬品が足りていないため満足に治療にあたるできません。悪化する情勢にともない、支援活動の継続がかつてないほど困難な状況にあります。医療ニーズはますます高まっています。世界の医療団は、イドリブ、アレppo、ハマー、ダラアールの医療施設や移動クリニックを支援しており、プライマリーヘルスケア、手術、妊産婦のケア、理学療法などに力を入れて活動しています。



人間開発指数

(188か国中) 149位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 12.9人

平均寿命 69.7歳

医師、看護師、助産師の数

(国民1万人あたり) 38.5人

※人間開発指数・平均寿命 Human Development Report 2016(UNDP)

※5歳未満死亡率・医師、看護師、助産師の数 World Health Statistics 2017(WHO)

ハイチ

長期支援



©Jean Marc Hervé Abélard

人間開発指数

(188か国中) 163位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 69人

平均寿命

63.1歳
医師、看護師、助産師の数
(国民1万人あたり) 一人

2016年10月4日、大型ハリケーン「マシュー」がカリブ海の島国ハイチを襲いました。2010年に未曾有の大地震に見舞われたハイチでは、衛生環境の悪さや脆弱な医療システムが要因となって瞬間にコレラが大流行しました。その撲滅のための活動が継続されていた最中に「マシュー」が発生したのです。病院やヘルスセンターは機能を再び失い、劣悪な衛生環境によってさらなるコレラの感染拡大が懸念されました。世界の医療団は、ハリケーン以前からグランダンス県など被害の大きかった南部地域で活動をしていたため、活動を直ちに緊急支援に切り替え、本部からも緊急チームと物資を投入しました。コレラの蔓延に歯止めをかけるため、感染者への適切なケアと予防のための啓発活動によって、地道ながら確実な活動を行っています。

ラオス

長期支援(小児医療強化プロジェクト)



人間開発指数

(188か国中) 138位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 66.7人

平均寿命

66.6歳
医師、看護師、助産師の数
(国民1万人あたり) 10.4人

2017年1月、フアパン県ソン郡及びフアムアン郡で「ラオス小児医療強化プロジェクト」がスタートしました。地域の医療サービスを担うヘルスセンターは、医療スタッフや知識の不足、基本的な医療設備の不備などの課題を抱えており、住民のニーズに対応できる十分な環境はありません。そのため、特に5歳未満の子どもたちは、日本であれば医療で救うことができる下痢や肺炎などの病気が原因で亡くなるケースが多くみられます。本事業は、小児医療の基盤を構築、強化することにより5歳未満児の死亡率削減に貢献することを目的としています。2017年は、郡病院やヘルスセンタースタッフへの小児医療技術向上のための研修を計6回、住民の小児医療の正しい知識普及の役割を担う、村落健康普及委員会を対象にした子どもの健康に関する研修を計18回実施しました。

ミャンマー、バングラデシュ、マダガスカル

スマイル作戦

スマイル作戦とは、生まれつき、または戦争、事故、病気などにより、顔や身体に奇形や機能の障がいをもつ人々へ無償で形成外科手術を提供するプロジェクトです。1989年に始まり、これまでに15,000人以上に笑顔を届けてきました。例えば、もっとも多い症例のひとつである口唇裂の場合、1度の手術で大きく改善することができます。しかし、開発途上国では、日々の生活も貧しく、手術を受けるための費用をまかなうことができない家庭も少なくありません。また、医師の数が少なく、命に関わる治療が優先して行われるため、形成外科手術を受けられる機会は非常に限られています。スマイル作戦では、日本の医師、看護師が現地の医師、看護師とともに手術を行い、技術を伝えていくことで、現地の医療を発展させていくことも重要な目的のひとつとしています。今、治療を必要とする人々へ治療を提供するとともに、未来の医療も支えているのです。

◆ミャンマー

【回数】2回

【期間】6月25日～7月2日
12月10日～12月17日

【手術件数】41件

【派遣ボランティア】延べ9人

◆バングラデシュ

【回数】1回

【期間】3月17日～3月22日

【手術件数】22件

【派遣ボランティア】4人

◆マダガスカル

【回数】1回

【期間】8月5日～8月14日

【手術件数】29件

【派遣ボランティア】2人

〈ミャンマー〉

人間開発指数

(188か国中) 145位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 50人

平均寿命

66.1歳
医師、看護師、助産師の数
(国民1万人あたり) 15人

〈バングラデシュ〉

人間開発指数

(188か国中) 139位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 37.6人

平均寿命

72歳
医師、看護師、助産師の数
(国民1万人あたり) 6人

〈マダガスカル〉

人間開発指数

(188か国中) 158位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 49.6人

平均寿命

65.5歳
医師、看護師、助産師の数
(国民1万人あたり) 3.6人



©Kazuo Koishi



※人間開発指数・平均寿命 Human Development Report 2016(UNDP)

※5歳未満児死亡率・医師、看護師、助産師の数 World Health Statistics 2017(WHO)

日本Japan

福島そうそうプロジェクト

地震、津波の被害に加え、福島第一原子力発電所の事故による被害にも見舞われた福島県沿岸部。震災により崩壊した精神科医療の回復を支援するため、2012年、世界の医療団は、震災後に設立された現地NPO法人「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」を協働パートナーとして、相双地区（相馬市、南相馬市、いわき市）でこころのケア活動を開始しました。2017年は、3月から4月にかけて相双地区における避難指示の解除が加速化しました。それにもない、住民たちは、医療、高齢者施設や商業施設などが戻っていないまま帰還することなどにより、新たなストレスにも直面しています。世界の医療団は、精神科医、看護師、臨床心理士、健康運動実践指導者を派遣し、診察のほか、サロン活動、アウトリーチ活動などにより、こころのケア活動を行っています。



©Kazuo Koishi

川内村こころのケアプロジェクト

川内村は、2016年6月にすべての避難指示が解除されました。現在では約8割の住民が村に帰還しましたが、多くは高齢者であるため、認知症や環境の変化による不安や不眠、ひきこもりなど、住民が抱える問題は複雑化しています。また、自身も被災者でありながら支援者の立場でもある自治体の職員は、通常の業務に加えて震災に関連する業務をこなしている状態が続いており、支援者への支援の必要性も高まっています。世界の医療団は、川内村保健福祉課に精神科医を派遣し、高齢者が暮らしやすい村づくりの助言や認知症の予防講座などを行っています。



©Kazuo Koishi

ハウジングファースト東京プロジェクト (ホームレス状態の人々の精神と生活向上プロジェクト)

2010年、東京・池袋周辺地域において精神的な疾患を抱えながらホームレス状態にある人々が、「障がいがあっても安心して地域で暮らす」ことを目指して活動が始まりました。現在では、医療、住まい、生活のサポートなど、それぞれの専門をもつ7つの団体からなるコンソーシアムとなり、多岐にわたる活動を展開しています。

ハウジングファーストとは、まず安心できる住まいを確保することから支援を始めるという考え方です。従来型の支援では、集団生活をしながら自立のためのトレーニングを経て、それをすべてクリアした人だけがアパートでの暮らしを得られるというものでしたが、多くの人はその過程でドロップアウトし、路上生活に戻っていました。これまでの経験から、ハウジングファースト型の支援では、人は安心できる住まいがあると、精神状態が安定することがわかっています。そして、生活を立て直すことに前向きになり、持病に向き合ったり、健康を維持しようと努めたりできるようになります。プロジェクトを構成する団体のひとつ、ゆうりんクリニック院長で世界の医療団ボランティア医師の西岡誠氏は、『「住まいは人権」がハウジングファーストの理念ですが、医療者として『住まいは健康に良い』と付け加えたい』と話します。



©Kazuo Koishi



©Kazuo Koishi

2017年

無料の医療相談会 27回実施し、のべ1,176人を診察

人間開発指数	(188か国中) 17位
5歳未満の乳幼児死亡率	(出生1,000人中) 2.7人
平均寿命	83.7歳
医師、看護師、助産師の数	(国民1万人あたり) 130.9人

※人間開発指数・平均寿命 Human Development Report 2016(UNDP)

※5歳未満死亡率・医師、看護師、助産師の数 World Health Statistics 2017(WHO)

証言活動

沈静化したかにも見えたシリア情勢でしたが、化学兵器を使用した攻撃や病院への攻撃が続き、イエメンなどでは封鎖による食糧危機やコレラ蔓延などが発生、非人道的行為による市民の犠牲が目立つ1年となりました。国際社会の一翼を担う日本として、国際NGOとして、それら国際人道法違反を糾弾し、市民、人道支援団体スタッフ、病院、医療従事者の保護を終始訴えたほか、報道が少ない日本において発信し続けることに努めました。2月にはラオス小児医療強化プロジェクトが新たにスタート、その他プロジェクトにおいても動画を用いた現場からの発信の強化を図るほか、インスタグラムを開設しました。また、コンゴ民主共和国の婦人科医師デニ・ムクウェグ氏と同国の鉱物資源を巡る紛争と性暴力を描いたドキュメンタリー映画「女を修理する男」の上映会、ハウジングファースト国際シンポジウムなどを実施、支援者の皆さんと直接対話する機会を設け、現場の声を届ける活動を実施しました。



©Kazuo Koishi

イベント(抜粋)

■ブース出展

アースガーデン秋／アースデイ東京／グローバルフェスタ
夏休み自由研究大作戦／フレンチブルーミーティング
よこはま国際フェスタ 他

■チャリティイベント

クリスマスチャリティ／支援者の集い



©Kazuo Koishi



©Kazuo Koishi



キャンペーン

◎1000人のスマイル作戦キャンペーン

スマイル作戦で治療を受ける子どもたちとその家族に向けてメッセージを贈り、応援するキャンペーンを実施しました。2017年度は、30か所の施設、イベント会場で、延べ31回開催しました。



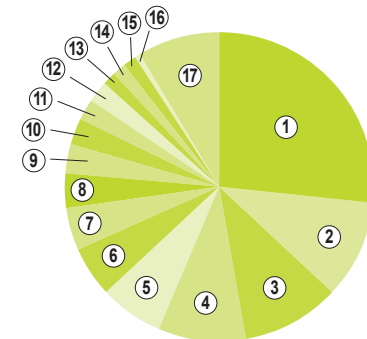
©Kazuo Koishi

2017年度決算

世界の医療団は、1名の監事による会計及び業務の内部監査と、外部の独立した公認会計士による会計監査を毎年度受けています。

収入(単位:日本円)	220,412,930	支出(単位:日本円)	204,933,797
寄付	143,917,457	プロジェクト費(医療支援+証言活動)	155,785,363
助成金	71,799,862	募金事業	44,252,147
収益事業	817,218	商標権使用料等事業	866,023
謝礼 ほか	3,648,393	管理費	4,030,264
会費	230,000		

◎プロジェクト費内訳



①ラオス／小児医療強化プロジェクト	26.8%
②ハウジングファースト東京プロジェクト	10.4%
③シリア／緊急支援プロジェクト	10.2%
④東日本大震災被災地支援プロジェクト	9.2%
⑤スマイル作戦	6.7%
⑥イエメン／栄養危機緊急支援プロジェクト	5.2%
⑦ヨーロッパ難民支援プロジェクト	4.5%
⑧ロヒンギャ緊急医療支援	3.6%
⑨ニジェール／栄養危機緊急支援プロジェクト	3.1%
⑩ハイチ／感染症対策、リプロダクティブヘルス	2.7%
⑪ナイジェリア／栄養危機緊急支援プロジェクト	2.2%
⑫ソマリア／プライマリーヘルスケア、母子保健プロジェクト	2.1%
⑬ソマリア／妊産婦と乳幼児の診療	1.6%
⑭フィリピン／電子廃棄物の有害物質から子どもを守るプロジェクト	1.4%
⑮ソマリア／栄養危機緊急支援プロジェクト	1.3%
⑯メキシコ地震緊急医療支援	0.6%
⑰証言活動*	8.4%

*ニュースレター発行、MdMの活動紹介イベント、写真展など開催、NGOイベントへの参加等

世界の医療団は「認定NPO法人」として東京都より認定されています。
世界の医療団へのご寄付は税制上の優遇措置を受けることができます。

政策提言(アドボカシー)

- フランスとベルギーよりゲストを招き、東京と大阪でハウジングファースト国際シンポジウムを開催した。
- 東日本大震災被災地支援提言書「福島のことろ」を発信した。